

NICU退院直後の母子に対する早期介入

(分担研究2 乳児期 (TODDLER AGE)の介入システムの確立とその効果)

所属：1 よつぎ療育園 Department of Pediatrics, Tokyo Metropolitan Yotsugi Medical Center for the handicapped 2 自治医科大学小児科 Department of Pediatrics, Jichi Medical School, Tochigi 3 同リハビリテーション科 Department of Rehabilitation, Jichi Medical School, Tochigi 4 自治医科大学看護短期大学 Jichi Medical School, School of Nursing

研究協力者：宮尾益知¹

共同研究者：森 優子²、本間洋子²、青木利志恵²、大塚崇江²、香田絵美子²、大内ひろこ²、黒淵永寿²、美濃厚子²、上野美代子²

【要約】極低出生体重児やNICU退院児に対し、退院直後から育児指導を中心とした会(すくすくクラブ)と運動や遊びの援助を中心とした会(巣立ちの会)の2つの形態で早期介入を行い、医療機関におけるNICU退院児のフォローアップシステムについて考察した。

【見出し語】NICU、早期介入、育児支援、極低出生体重児

【目的】自治医大小児科では平成5年5月より早期介入を行ってきたが、その形態として、病院(巣立ちの会)および地域主体の会(小山巣立ちの会)を作り、それぞれ独自の方式により運営してきた。その結果、より早期の介入が必要と考えられ、退院直後からの介入を行っている^{2,3,4)}。また、看護短期大学の協力を得て、育児支援のグループとしてNICU退院児を対象に平成6年9月より「すくすくクラブ」を行ってきた。本年はすくすくクラブの4年間のまとめとNICU退院後のフォローのあり方について述べる。

1. すくすくクラブ

すくすくクラブは未熟児センターを退院早期に育児不安を有する母親への臨床と教育の資源を活用した人間性豊かな育児支援が運営の基本姿勢である。

【対象】NICU退院児全員を対象として退院時に希望者を募っている。1997年12月現在登録者数は69名、1回の参加は25~30組である。

【方法】自治医科大学看護短期大学実習室(附属病院小児科外来から徒歩5分)において、毎月1回1時間半(午後1時30分~3時00分)開催した。スタッフは看護短期大学教員3名、看護学生小児看護セミナー選択学生数名、NICU看護婦3~4名、小児病棟保母1名、地域のボランティア1~2名、臨床心理士1名、保母1名、音楽療法士1名、小児科医師1名である。参加費用は1年間6000円で、未熟児センターを退院時に前納とした¹⁾。1名の児について12回参加後、終了になる。

【プログラム】開会の挨拶、メインテーマ(図1)、歌遊び・手遊び・集団プレイ(保母を中心とした遊び)、自由遊び、おやつ・歓談、子育てデイスカッション、次回予告、閉会の挨拶順に行った。メインテーマの時は母子が分かれ、母は講師の話の聞いたり、デイスカッションを行う。その間、講師や進行役以外のスタッフが、隣の部屋で児を預かる。

【ニュースレターの発行】機関誌として毎月開催日に発行した。内容は前例会の紹介、手遊び歌の歌詞、参加者のメッセージ、育児に関するワンポイントアドバイスなどである。当日参加できない児に対してはニュースレターを郵送した。

【結果】開始後の参加者数は計140名であり、のうち、他医療機関出生者2名、小児病棟退院児1名も含まれている(表1)。参加児の平均在退週数は32.7週、平均出生体重は1774g、双胎は24組であった。参加希望親子は必ずしも極・超低出生体重児だけではなく、低出生体重児、病的新生児も含まれていた。NICU入院児の3割の親子が退院後の育児指導等の必要性を感じているといえる(表2)。

【考察】医療機関の業務の中で、退院後のフォローを継続的に行っていくことは、医師の外来診療以外は通常はありえなかったが、すくすくクラブは医師以外のスタッフが積極的に退院児のフォローに参加できるシステムになし得た点が画期的なことだと思われる。大学病院であり、看護短期大学の広い実習室を2部屋使用できることも本事業を進める上で有用であった。

今後の問題点として、参加児が増加してきたため、母子分離をする際の保育者が不足してきたことに対する対策、また、参加者が60組になった場合の会場の問題、退院時に参加を希望しながら、実際には参加できない親子のフォロー、母子関係や児の発達に問題を生じた場合の外来診療との連携等があり、今後検討していきたい。

表1. すくすくクラブ参加者数-年度別、出生体重別

年度\BW	<1000	1000~1499	1500~2499	2500≤	計
1994*	1	3	2	1	7
1995	5	10	8	1	24
1996	3	11	25	14	53
1997	3	15	31	4	53
計	12	39	66	20	137(名)

縦軸に出生年度、横軸に出生体重(g)を示す。

参加児には他にNICU外出生3名を含む

表2. NICU生存退院児数-年度別、出生体重別

年度\BW	<1000g	1000~1499g	1500~2499g	2500g≤	計
1994*	4	11	45	11	71
1995	9	22	40	5	76
1996	6	19	68	47	140
1997	8	23	70	32	133
計	27	75	223	95	420(名)

縦軸に出生年度、横軸に出生体重(g)を示す。

*1994年度は9月から3月の7か月

図1. すくすくクラブ メインテーマと担当者

予防接種・母子手帳の活用 (短大教員・医師)
赤ちゃん体操 (OT)
赤ちゃんのスキンケア (短大教員)
具合が悪くなった時の家庭看護 (看護婦・医師)
子育ての苦勞と楽しみ (父親)
風邪の予防・予防接種 (看護婦・医師)
クリスマス会 (看護婦・保母)
離乳食(1)準備期・初期・中期 (看護婦)
離乳食(2)中期・後期・完了期 (看護婦)
遊ばせ方 (おもちゃ・絵本・他) (保母)
子どもの発達・未熟児の特性(医師)
子どもの事故防止 (特に乳幼児) (看護婦・医師)

2. 巣立ちの会(乳児グループ)

スタッフ、開催頻度、開催方法、プログラムについては平成8年度と大きな変更なく行った。乳児グループは退院直後からの介入(極低出生体重児)で今年度で3年目に入った。退院直後から独歩までを対象にしており、ほぼ1年違う子供達が一緒に参加しているが、ボール遊び、リズム遊びなど退院直後の子供達でも母子の参加なので、大きな問題なく取り組んでいる。平成9年は延べ9名(平均在胎週数29週,平均出生体重1208(860~1472)g)が参加した(双子1組を含む)。出席率は87.5%であった。

3. 巣立ちの会(幼児グループ)

巣立ちの会(幼児グループ)は、低出生体重児で軽度の言葉の遅れ,多動などを有するリスク児の就園前介入を目的にしている。平成9年度は乳児グループから進級した2名と新たに外来で問題が見い出されたため、参加した児が6名、保健所からの紹介(他医で養育)1名延べ9名(平均在胎週数32週、平均出生体重1333(870~2035)g)が参加した(双子2組を含む)。出席率は95%である。

3. フォローアップ外来

今年度より小児科医師に臨床心理士が加わった。NICU看護婦の外来時配置が、今後の課題である。

4. 地域との連携

児の軽度の発達の遅れ、母親の養育態度に問題がある場合、保健所、市町村の親子教室、幼稚園の解放による子育て教室へ依頼した(1~3歳児)。内訳は保健所親子教室4名、母子通園ホーム1名、市町村の親子教室2名、幼稚園の子育て教室3名、児童相談所3名、栃木県身体障害医療福祉センター3名であった。

5. 自治医科大学NICU退院児のフォローアップシステムのまとめ

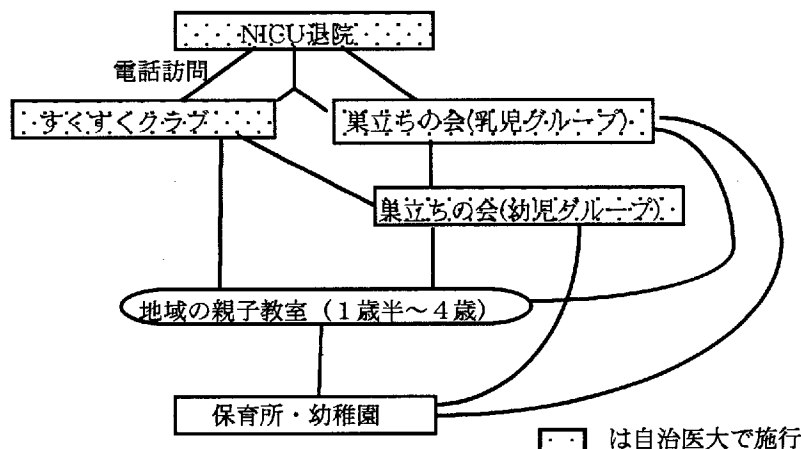
自治医大では、NICU退院児に対し、退院後1週間頃に受け持ち看護婦が電話訪問を行い、必要があれば家庭訪問を行っている。さらに新生児室担当医師により新生児フォローアップ外来を行っている。それに加えてNICU退院児のうち希望者にすくすくクラブ(母の精神的安定・育児指導目的)を行い、極低出生体重児のうち希望者を対象に巣立ちの会(乳児グループ)を開催している(独歩まで)。これらの参加児やフォロー児のうち、明らかな発達上の問題や母子関係上の問題を呈した症例には個別訓練や地域保健婦・児童相談所との連携を行っている。独歩以降は地域の自主サークルや保健センターの親子教室を紹介し、その後に保育所や幼稚園に入所・入園できればよいと考えている。地域で利用可能な施設がない場合は巣立ちの会(幼児グループ)に参加している。

NICUを不安を抱いて退院した親子に対し、入院中から関わってきた医療機関で退院直後よりフォローを行うことは保護者の精神的安定のために有用と考えられる。課題はさらに地域との連携を密にすることである。

【参考文献】

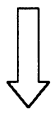
- 1)宮尾益知、森 優子、本間洋子、他、自治医科大学における極低出生体重児に対する早期介入。厚生省心身障害研究班平成8年度報告書「ハイリスク児の健全育成のシステム化に関する研究」1997;40-41.
- 2)宮尾益知、福原かほり、森 優子、他、小山巣立ちの会。厚生省心身障害研究班平成6年度報告書「ハイリスク児の総合的なケアシステムに関する研究」1995;71.
- 3)宮尾益知、福原かほり、森 優子、他、すくすくクラブ。厚生省心身障害研究班平成6年度報告書「ハイリスク児の総合的なケアシステムに関する研究」1995;72.

図2 自治医科大学NICU退院後のフォローアップシステム





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】極低出生体重児やNICU退院児に対し、退院直後から育児指導を中心にした会(すくすくクラブ)と運動や遊びの援助を中心とした会(巣立ちの会)の2つの形態で早期介入を行い、医療機関におけるNICU退院児のフォローアップシステムについて考察した。